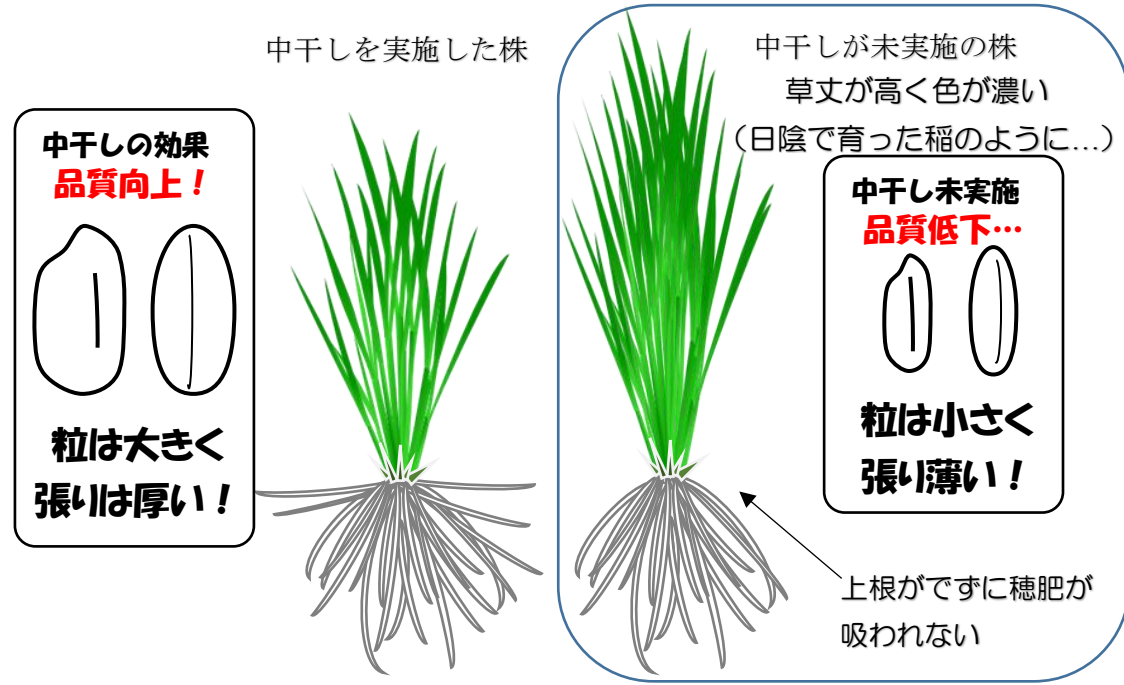


中干しを実施し、過剰生育を防止しましょう！！
 過剰生育を防止することで未熟粒の発生を軽減します！（未熟粒は今年の格落ち要因第1位）

R1.6月
 JA佐渡営農事業部

◎ 根と共に葉が広がる！

葉の受光態勢を良くし光合成を活発化させ、登熟性が高まります！



田植え
 5月5日

35日経ったら

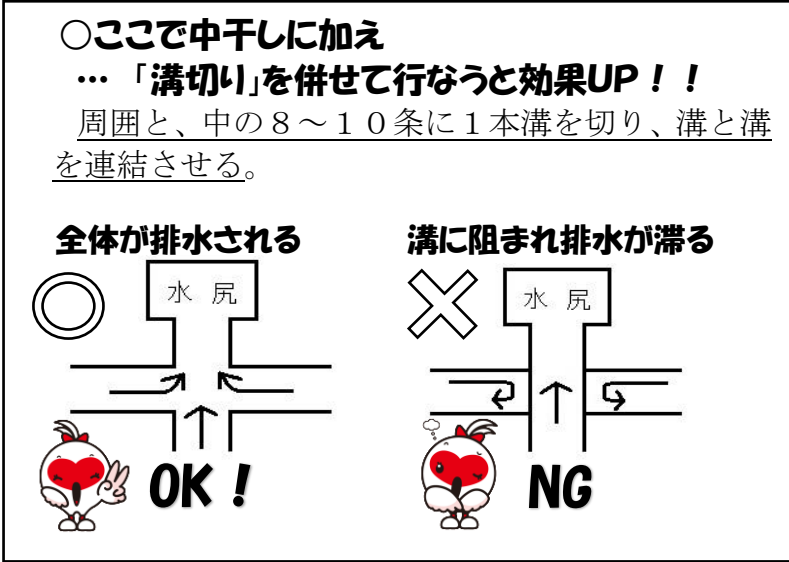
落水開始！
 6月10日
 （水が無くなった
 中干しとする）

低地力または漏水田の場合
 ◎田面が乾き過ぎないように
 4～7日に1回入水しましょう

2週間を目安に！

間断かん水
 6月29日

中干しの程度は田面に「小ヒビ」が入る程度が目安です。



◎ 水不足で用水確保が難しい「ほ場」ほど溝切りをしっかりとしましょう！！

ほ場内の用水を確保しつつ「溝切り」は実施し、少ない水でも素早く灌水できるように切る本数を増やす。
 雨が期待できる場合 ⇒ 溝の表面に多少水が溜まる程度の管理を繰り返す（間断かん水）
 雨の期待できない場合 ⇒ 溝切りのみ実施し、用水確保に努め浅水管理とする。

◎ ケイ酸資材の施用で更に品質向上！

ケイ酸資材を施用することによって、高温障害・心白粒の発生
 登熟不足の軽減効果があります！

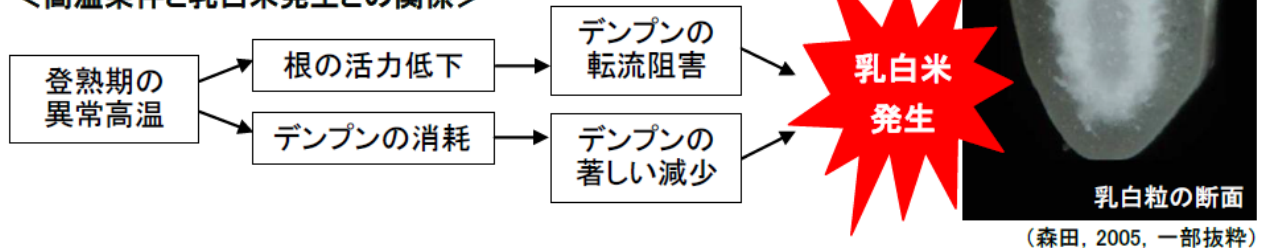
...詳細は裏面へ！

水稻の高温障害対策は ケイ酸のクーラー効果で備えを！

乳白米発生の原因

出穂から出穂後 15 日の気温が高い場合に乳白米が発生しやすいことがわかっています。

＜高温条件と乳白米発生との関係＞



ケイ酸を施用すると(効果)

○ケイ酸施用でイネの葉の温度が下がる(クーラー効果)

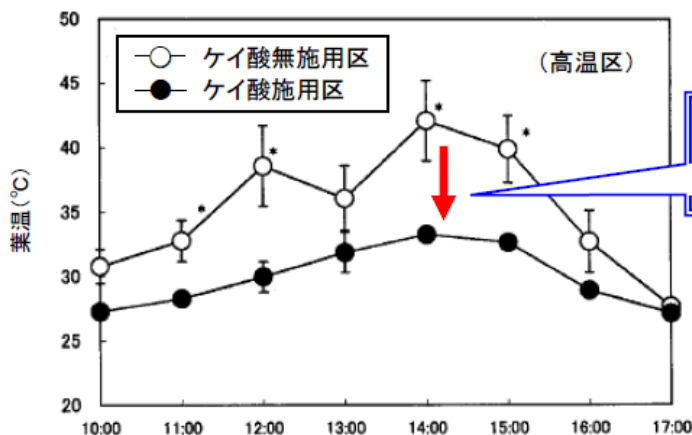


図 ケイ酸施用が水稻の止葉葉温の日変化に及ぼす影響 (2006 年 9 月 2 日)
(金田ら:秋田県立大 2010)

平均で 5.7°C 低下しました

ケイ酸施用によって根の活性が高まり、蒸散が多くなるため、イネの葉の温度が高くなるのを防ぎます。

その結果

光合成が活発になり、デンプンのモミへの蓄積が良くない乳心白米の発生が軽減され品質が向上します！

更にケイ酸の効果として

倒伏の軽減や食味の向上も期待できます。

対策として(中間追肥)

中干し終了後はケイ酸の追肥の時期を迎えます。

施用していない方は 6 月下旬から 7 月上旬に施用しましょう。

(秋の土づくり、春の基肥で十分にケイ酸資材を施用している場合は不要です)